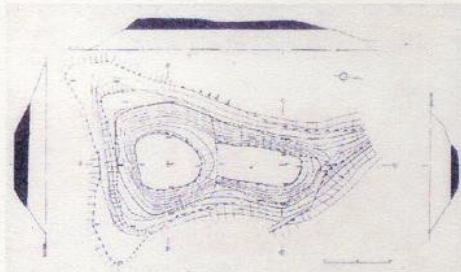


## ②高館山古墳

この古墳は、これまで正式な発掘調査が行われていません。所在地が中世の高館城(たかたてじょう)の南東側に張り出す丘陵先端(きゅうりゅうせんたん)にあり、前期(4世紀頃)の古墳に特有(とくゆう)の山上(さんじょう)古墳と呼ばれるすがたを見せています。確かな山上古墳と認定(にんてい)されれば、全長60mの仙台平野で最も古い時期の前方後方墳となります。

I-17-②-a



I-17-②-b



I-17-②-c



I-17-②-d

## ③雷神山古墳

この古墳は、標高(ひょうこう)約40mの丘陵上につくられた、全長168mで東北最大の規模(きぼう)を誇る前方後円墳です。墳丘には、三つの段がつくられ、表面に葺石(ふきいし)がしかれています。この古墳からは、壺形埴輪(かぶりかたはら)や底部穿孔(ていぶせんこう)壺形土器などが見つかっています。また、この古墳のすぐ北側には直径54mの小塚(こづか)古墳と呼ばれる円墳があります。

雷神山古墳は、仙台市の遠見塚(とほみづか)古墳の勢力(せいりき)を引きついで仙台平野を治めた王者(みかど)とも言える豪族(ごうしゆ)の古墳です。つくられた時期は、4世紀後半と考えられています。また、この古墳に続く大型古墳としては、名取大塚山古墳があり、その後これ以外に大型古墳がまわりになく、後継者(ごけいしや)の権力が急激(きゅうげき)に衰(おとろ)えたことをうかがい知ることができます。

**墳丘とは：**

遺体(いだい)をおさめるためにつくった山のようなところ。

**底部穿孔壺形土器とは：**

壺形の土器のそこに穴をあけて焼いたもので、実用的ではない土器。雷神山古墳の場合、大小二つのタイプが出土しています。

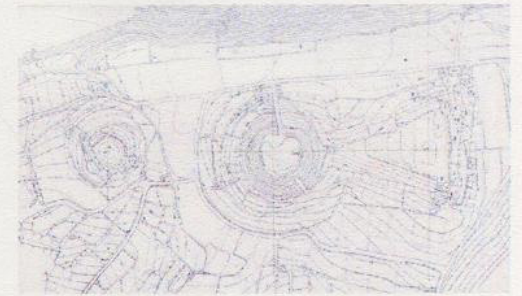
**葺石とは：**

墳丘を形をはっきりとりっぱに見せるためにしかれた石です。また、墳丘にしかれた石によって、高く盛った土が流出するのを防(はせ)ぐ働(はたら)きもあったようです。雷神山古墳の場合、葺石の大きさは握りこぶしぐらいで、墳丘の斜面に限って葺かれていたようです。

I-17-③-a



I-17-③-c

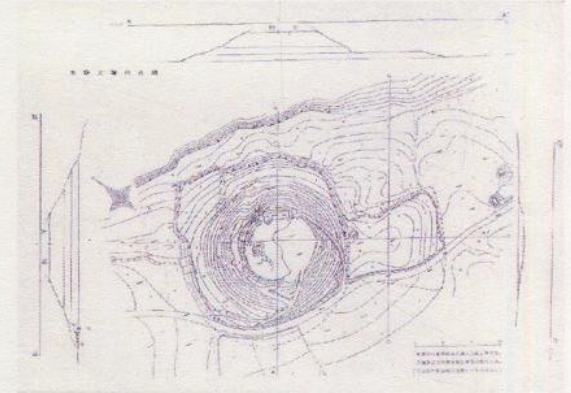


I-17-③-b

## ④名取大塚山古墳

この古墳は、全長90mの前方後円墳で後円部が直径60m、高さ8.5m、前方部の長さ30m、高さ2.3mあります。後円部には、三つの段がつくられ、表面には葺石(ふきいし)もしかれています。つられた年代は、出土した円筒(えんとう)埴輪(はら)などから5世紀中頃と考えられています。

I-17-④-a



I-17-④-b



I-17-④-c



I-17-④-d